令和4年度第2回 燕市図書館協議会 会議録（要旨）

- 日 時 2月8日（水）午前9時30分～11時00分
- 会 場 燕市中央公民館 3階 中ホール
- 出席委員 加藤 一夫委員、木村 久栄委員、幸田 素子委員、澤田 麗子委員、
田中 淳子委員、田村 京子委員、新井田 義一委員、本間 哉委員、
山口 博幸委員
- 欠席委員 柳原 康浩委員
- 事務局 燕市教育委員会 小林教育長、太田教育次長、廣田社会教育課長、
石黒課長補佐、石村係長、関根主事
指定管理者 石原館長、山田業務責任者（燕市立図書館）
- 報道機関 なし
- 傍聴者 なし
- 議 題 報告
- (1)令和4年度図書館利用状況（R4.12月末現在）について
 - (2)令和4年度図書館事業実施状況（R4.12月末現在）について
 - (3)令和4年度蔵書点検報告について
- 協議
- (1) 令和5年度図書館事業計画（案）について

[以下、会議録（要旨）]

報告

(1)令和4年度図書館利用状況（R4.12月末現在）について

《事務局説明》

（委員からの質問なし）

(2)令和4年度図書館事業実施状況（R4.12月末現在）について

《事務局説明》

○委員

本の通帳配布は冊数か人数か。また子どもより大人の方が多いのなぜか。

○事務局

745冊である。大人の配布が多いのは、利用者の構成比の関係や40周年のキャンペーン時に大人の入会が多かったことによるものと考え。乳幼児から高齢の方まで幅広く入会をおすすめしている。

○委員

押し本総選挙について、当日吉田の図書館で30分ぐらい投票者がいないか見ていたが、残念ながらその時間帯は誰もいなかった。館長からは好評だったというお話があったが、令和5年度の計画には載っていない。選挙を覚えてもらう、雰囲気味わうということでは令和5年度の計画にもあったほうがいいのではないか。

○事務局

昨年は市議会議員選挙に合わせて、選挙の流れを知っていただくということを目的に開催した。令和5年度の事業には計画はしていないが、3月に実施する利用者アンケートの動向をみながら再検討しようと思う。

○委員

分水、吉田、燕のいろいろなおはなし会に参加させてもらった。直近では吉田のうたの絵本のおはなし会に参加した。一緒になってお子さんと歌を歌ったりする会で非常に楽しかった。ただ残念なことに語り手、歌い手よりも参加者の方が少なかった。もっと多くの方に知っていただいて、参加の機会を増やしていただきたい。

○事務局

ありがとうございます。

(3)令和4年度蔵書点検報告について

《事務局説明》

（委員からの質問なし）

協議

(1) 令和 5 年度図書館事業計画（案）について

《事務局説明》

○委員

3 ページの絵本と珈琲、本当に怖いおはなし会は、図書館の読み聞かせボランティアの方が行うのか。

○事務局

これについては図書館の職員及びボランティアの方にもご協力をいただいて実施したいと思っている。

○委員

ここ 3 年ほどコロナの関係でブックバスが中止になっていたが、令和 5 年度は開催する予定か。

○事務局

実施の予定で動いている。

○委員

今年度の入場者数、利用者数、貸出数とも減少しているということは、やはり図書館離れ、本離れが進んでいるのかなと思う。どうやったら来たくなるような図書館になるのかという視点で、令和 5 年度の事業計画をもう 1 回見ていただきたい。ほんとにこれで子どもや大人が来たくなるような事業なのかということを人が来る視点で考えてもらうことが必要だと思う。

○委員

1 つ目に 7 ページ一番下の児童館の先生向け読み聞かせ講座が不定期開催ということだが、振り返り講座、スキルアップ講座という研修という意味から考えて、毎年開催日を決めて定期講座で行った方がより先生方のレベルアップ、共通認識ができるのではないか。

2 つ目に 8 ページの下から 2 番目の自己モニタリングについて、隣市の図書館には質問、意見等を記入できるカードが置いてある。日々の利用者の気持ちを知るためには常に投書できるような形にしていた方がよいのではないか。

3 つ目に図書館キャラクターについて、図書館の新キャラクターの名前が出たときに、燕市全体として統一性がなくてもいいのか。図書館だけでの名前が良いのかということに関係各所で協議されたほうが良いのではないか。

○事務局

1 つ目のご意見について、定期的なやることで参加者を増やす等のメリットがあるのであれば検討したいと思う。

アンケートについてだが、普段図書館に対する要望等を書くものは設置してある。もう少しアンケートの投書箱が目立つような形で利用者の方にアピールした

いと思う。

3月に実施しているアンケートについては、現場を預かるものとして、できれば図書館を利用しない方のなぜ利用しないのかという意見を吸い上げたいと考えている。

キャラクターについては、図書館のいろいろなものに親しみを持っていただくようなものという考え方で図書館独自のキャラクターを考えている。どこまで、このキャラクターを使用するのかという問題があるため、自治体と相談しながら実施していきたいと思う。

○委員

(7)の学校との連携事業の中で意見を一つだけ言わせていただきたい。学級文庫パックが非常に良いなと思っている。小学校も図書館の予算があるが、限られた予算なので、その中で図書館おすすめの本ということで紹介していただけるのは、子どもの読書の機会を増やすということではいいことだと思う。可能であれば本屋さんにある本の紹介のように、この本はこんな魅力があるよというプロの目からのアドバイスがあるとさらに子どもたちも読みたいという気持ちが湧くと思う。ご配慮いただけると大変ありがたい。

○事務局

学校に貸出する本すべてにコメントを付けることは難しいが、数点コメントを付与するということ現場として考えてみたいと思う。

○委員

電子書籍について、現在市内の小中学校の子どもたちは1人1台クロームブックをお借りしている状態。こちらの方での閲覧することは可能か。

○事務局

つばめ電子図書館を閲覧するには、ログインが必要になる。図書貸出カードをお持ちの方がログインできるようになっているため、まずカードを作ってください必要がある。

○委員

子どもの読書離れについて、コロナが始まってから急速にIT化が進んでおり、Web上の文字を読む機会が大変多くなっている。電子書籍専用のアプリ等があるのならば、クロームブックに入れられるとより身近なものになると思う。特に中学生以上はクロームブックを持ち帰って宿題等の提出も行っているようなので、ぜひご検討いただきたい。

もう1点、来館困難な高齢者の利用について、「地域の茶の間」で読み聞かせをしていると、文字を読むことが困難になっている方が多いと感じる。ただ、つたない読み聞かせであってもとても楽しんで参加していただけるので、ぜひ読み聞かせの会を「地域の茶の間」で行っていただきたい。

○事務局

電子書籍についてですが、紙の本とあわせて電子書籍もご利用いただけるようにPRをしていきたいと思っている。

現在も体験会を実施しているが、その時に初めて電子書籍があることを知ったという方もいらっしゃる。さらに継続して実施していきたいと思う。

来館困難者への読書推進について、ケアハウス等へのおはなし会をボランティアの方の協力をいただいて実施していたが、コロナ禍ということもあり停滞してしまった。できる限りボランティアの方のご協力を得ながら実施する先を拡大していきたいと思っている。それから来館が困難な方ということで、ケアハウスなどの施設へ団体貸出を行うための準備をしている。いくつか実施するということが決まった施設もある。令和5年度の事業計画にも盛り込んでいるが、そういった方への読書推進も図っていきたい。

○議長

3 ページに絵本と珈琲が市内公民館で6月と出ているが、珈琲が出た場合は有料になるのか。

○事務局

これに関しては市民の方には無料を予定している。現時点では図書館内での飲食は禁止されているため、公民館の広い場所を借りて実施したいと思っている。普段来館しない方、図書館を利用したことがない方から興味を持っていただく良い機会としたい。

その他

○委員

燕市の図書館のホームページはなかなか興味が湧かない。もう少し子どもたちが見て興味をそそるようなホームページの作成をお願いしたい。

この半年ぐらいの地元新聞を見ると、佐渡では絵本のリーフレットの作成、長岡では移動図書館、三条では「まちやま」が載っていた。燕はあしながにいさん会、40周年の絵本の展示、本の福袋等が載っていた。今後もメディア等を利用して情報発信をしていただきたい。

芥川賞、直木賞の発表後に吉田図書館へ行ったら作者名、作品名がポップ式にボードに書いて貼ってあり感心した。ただ作者の作品がそこにはなかったため、できれば作者の作品等もあわせて飾っておいていただきたい。

最後に、図書館職員のモチベーションをあげる策として、ライブラリーオブザイヤーやレファレンス大賞などに挑戦してはどうか。2020年には新潟市の学校図書館支援センターがライブラリーオブザイヤーの特別賞を受賞している。職員のモチベーションを上げるというところで一つお願いしたい。

今図書館というのはコミュニティの核になる場所だと言われている。以前は本を貸す、返すだけの場所だったが、現在は地域に開かれていて、みんなが安心し

て時間を過ごせるサードプレイスであることが図書館に求められていることである。皆さんの英知を集結して市一丸となって燕の図書館は良いと言われるようにしていただきたい。

閉会